

マルチメディア放送ビジネスフォーラム  
デジタルサイネージワーキンググループメンバーと  
西鉄バスによる  
「デジタルサイネージ福岡実験」実施について

TOKYO FMは、西日本鉄道株式会社および株式会社西鉄エージェンシーとともに、福岡市が主体となって実施する総務省地域 ICT 利活用モデル構築事業「デジタルサイネージ福岡実験」に参画し、マルチメディア放送ビジネスフォーラム（註1）「デジタルサイネージワーキンググループ」メンバーである読売新聞、(株)フライトシステムコンサルティング、イースト(株)の協力を得て、福岡ユビキタス特区実験試験局（註2）の電波を使ったバス車内のデジタルサイネージ向けコンテンツ配信実験を12月23日（水・祝）より実施いたします。

この、総務省地域 ICT 利活用モデル構築事業「デジタルサイネージ福岡実験」は、鉄道の駅や地下街や、交通機関などに設置されているデジタルサイネージを活用して情報を配信するシステムを構築し、設置場所や時間帯などの特性に合わせた即時性のある防災や観光などの公共情報を提供するものです。

この実験において、西鉄バス（2路線、3車両）の車内にデジタルサイネージ（電子看板）を設置し、様々な公共情報コンテンツを表示します。今回、コンテンツを更新する手段として、福岡ユビキタス特区として設置されたマルチメディア放送実験試験局の電波を使用、IPパケット形式のデータを放送システムで送信するIPDC（IPデータキャスト）（註3）技術を用い、移動するバス向けに一斉に情報を配信するシステムを構築しました。これは、日本で初めての試みであり、世界的にも先進的なものです。

コンテンツは、読売新聞の協力により、ニュースや地域の天気情報をサイネージコンテンツに変換しリアルタイムに配信する他、福岡市のホームページや広報誌などの既存の媒体とのクロスメディア展開による福岡市の観光情報や行政情報など地域に密着した情報を提供し、公共情報の広報媒体としてのデジタルサイネージの効果を検証します。

記

■実験開始日

・平成21年12月23日（水・祝）～平成21年2月17日（木）予定

## ■実験車両バス主要路線

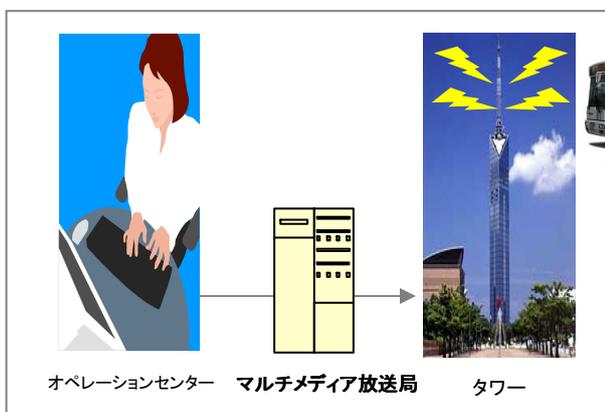
- ・ 検原営業所～百道、検原営業所～中央埠頭 <行き先番号 151、152>

## ■コンテンツイメージ

- ・ 福岡市観光情報
- ・ 福岡市行政情報
- ・ 読売新聞ニュース
- ・ 気象情報
- ・ 緊急災害情報
- ・ 天神ショッピング&イベント情報
- ・ 西鉄ライオンズの懐かし映像
- ・ 広告配信

以上

福岡ユビキタス特区の電波を使ってバスにサインージコンテンツを配信



中央埠頭・百道～検原営業所の系統で実施



運転席後部モニター



(註1) マルチメディア放送ビジネスフォーラムとは  
受信機開発やビジネスモデル提示などを通じて、デジタルのデータ放送等を使った新しい産業・ビジネスを实用化すべく環境整備を進めていくために、受信機メーカー・コンテンツ関係者・放送局、通信事業者が中心となり、2005年6月に設立された組織。デジタルラジオ放送の実用化を通じて実現しようと、旧名「デジタルラジオビジネスフォーラム」と付けられたが、2007年には国における議論も進み、音声多チャンネルサービスだけではなく、担い手においても新規参入を促進する形で、テレビでもラジオでもない「新しい第三の放送」を開発することが明確に求められるようになり、放送の名称も「マルチメディア放送」とされるに至り、会の名前を「マルチメディア放送ビジネスフォーラム」と改称して現在では5期目、会員数は延べ150社になる。

(註2)「福岡ユビキタス特区実験試験局」とは

「地方ブロック向けマルチメディア放送」の先行実験を実施するために、TOKYO FM と株式会社 CSK-IS が「ISDB-Tsb の拡張による3セグメント放送方式の実験」を共同提案した。2008年1月25日国の第一次指定が発表されたが、「福岡ユビキタス特区」はそのとき指定された22地区の一つ。2009年3月31日(火)、九州総合通信局より「実験試験局」免許を付与され、現在は最大出力250ワットで電波発射をし、6セグメント(3セグメント放送×2)のサービス実験を展開している。

(註3)「IPDC」とは

IPDC (IP Data Cast) とは、放送波に「IP」を乗せて一斉同報的なデータ配信を行うサービス。2011年以降のアナログテレビ放送終了後のVHF帯を利用した「携帯端末向けマルチメディア放送」でも、IPパケットを放送波で伝送する仕組みが各技術方式に盛り込まれている。